

第20回千葉県資源評価検討会議 会議録

- 1 開催日時 令和6年8月8日(木) 午後1時30分～午後3時15分
- 2 開催場所 県庁本庁舎16階 農林水産部会議室
- 3 出席者 <構成員>
東北大学大学院農学研究科 教授 片山 知史
県農林水産部水産局漁業資源課 課長 原 知比古
県水産総合研究センター 次長(企画調整室長事務取扱) 玉井 雅史
<その他>
県関係職員14名
- 4 検討事項
 - (1) 資源評価基準について
 - (2) 令和6年度資源評価対象種の選定について
 - (3) 資源管理協定の取組の効果の検証方法について
 - (4) 資源管理方針の変更について
 - (5) その他
- 5 検討事項の概要及び検討の結果
 - (1) 資源評価基準について
事務局から、第1回千葉県資源評価検討会議において決定された資源評価基準は変更せず、従前の基準により評価を行う旨説明があり、構成員から意見はなかった。
 - (2) 令和6年度資源評価対象種の選定について
事務局から、令和5年度に資源評価した35魚種について引き続き評価するとともに、今年度は昨年度評価票(総合判断A)を作成しているキンメダイ等18魚種にタチウオを追加した19魚種の評価票を作成する案を説明した。
構成員からの意見等は以下のとおり。
 - ・ 構成員から、タチウオについて、これまで不足していた他県水揚げ分のデータの収集方法について確認があり、担当者から漁協を通じて過去の分も遡って収集した旨の回答があった。
 - ・ 構成員から、タチウオについて、本県では主に東京湾と銚子で漁獲されているが、それらが1つの資源と考えてよいのか質問があり、担当者から1つの資源であるかは明らかでない旨の回答があった。
 - ・ 構成員から、東京湾のタチウオについて、今後、関係県とも協力して情報収集し、評価票の情報をより充実させていけるか質問があり、担当者からそのように進めて

いきたい旨の回答があった。

(3) 資源管理協定の取組の効果の検証方法について

事務局から、今後予定されている資源管理協定の取組みの効果の検証について、その実施方法案を説明した。

構成員からの意見等は以下のとおり。

- ・構成員から、漁獲量が減少しているホンビノスガイ等の検証に関して質問があり、事務局から、ホンビノスガイの場合、漁獲量減少の原因が明確でないため、現状は、現在の取組を継続しつつ、環境情報や漁獲動向を注視し、適切な資源管理方策を検討していくことが重要と考えている旨、回答した。

(4) 資源管理方針の変更について

事務局から、今後、TAC 管理が予定されている魚種等の千葉県資源管理方針への追加等について説明を行った。構成員からの意見はなかった。

(5) その他

- ・特になし

6 その他

事務局からTAC魚種拡大の検討状況及び次回の資源評価検討会議の予定について報告があった。